

横浜市立釜利谷南小学校 平成29年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

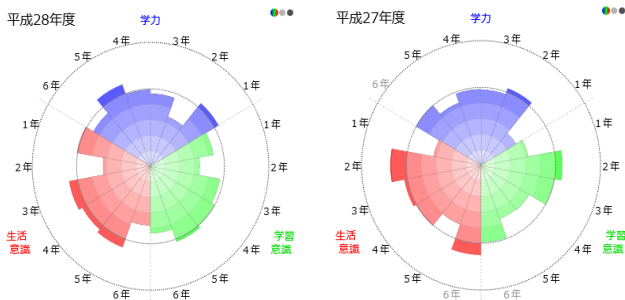
学校経営中期取組目標
<p>○夢や希望や目標をもち、それに向かって努力を重ね、認め合い、語り合える学校にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着を図りながら、児童が友達とのコミュニケーションを大切にし、学習の楽しさを実感し、主体的・対話的に問題解決を進めていくような学習展開を図ります。 ・児童一人ひとりが自己肯定感・有用感をもち、楽しく学校生活を送りながら、夢や希望を語り合える学校にします。 ・学校中に挨拶や笑顔や歓声があふれ、豊かな心や、健やかな体を育成する学校にします。 ・家庭や地域の教育力を学校に取り込むことを通して、進んでまちとかかわり地域とともに生きる児童を育てます。

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組		
確かな学力 (学習指導)	基礎基本の「知識・技能」の定着を図るとともに、問題解決的な学習を進め、「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」を育てる。	①校内授業研（国語）で言語活動を通して伝え合う力の育成を目指す。 ②算数は、習熟度別や少人数指導を行う。 ③自ら学習課題を設定し、学校司書とも連携しながら問題解決を図るような学習を展開する。 ④ニレの木タイムで基礎基本の定着・充実を図る。		
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 10%; padding: 2px;">担当</th> <th style="padding: 2px;">学習評価部</th> </tr> </table>	担当	学習評価部		
担当	学習評価部			

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析



学年によって違いはあるものの全体的には、横浜市の平均的な学力に近い。学力が市の平均を下回っている学年では、学習意識及び生活意識においても、低調な傾向にある。

基礎・基本の定着を図り、自信をもたせながら、意欲的に学習に取り組めるようにしていく必要がある。また、伝え合い、学び合う子どもの育成を目指すし、自分の考えを表現・交流し、友達と学ぶ楽しさを知る授業づくりが全学年通して求められていると考えられる。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：学年によって市の平均を上回っている領域が異なっている。国語の勉強は大切だと思っている児童は多く、授業が「よく分かる、どちらかといえば分かる」の割合は9割を超えている。
- 算数科：第2学年が市平均を下回り、第6学年が上回っている。学習意識は、ほぼ市平均に近い。
- 社会科：領域によって違いはあるが、市平均に近い。学習意識はやや低い傾向にある。
- 理科：第3学年は思考・表現、第4学年は技能、第5学年は全領域で市平均を上回っている。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

平成26年度から28年度過去3年間の経年変化の状況から見ると、学校全体としては市平均に近い状況であるが、学年や教科によってばらつきがみられる。

生活意識調査では、勉強が好きだと答えた児童の割合はほとんどの学年が市の平均を超え、学習意識ではどの学年もそれぞれの教科の学習は大切だと考えている割合が高い。今後、基礎基本の定着を図りながら、子ども達が主体的・対話的に問題解決を行っていくような目の輝きの見られる学習を広げていきたい。